

■今月の特選句

2014年2月号

■ 暈目を舐めるが如く日脚伸ぶ

永島董玉

「舐める」の動物的語感が、この句のポイントですね。「暈目を数へる如く日脚伸ぶ」「暈目の汚れ暴きつ日脚伸ぶ」。今いちだね。董玉君に脱帽。

■ 歌留多とり小町式部の胸を触れ

柳 紅生

歌留多のヒロインを擬人化したね。歌留多はスポーツになっているからね。「歌留多とり式部小町の胸に痣」「歌留多会婦女暴行となつてゐる」。

■ 寄合うて列島ちぢむ寒波かな

金澤 健

「列島ちぢむ」が実感ですね。俳句はまさに実感を描く。「お年玉あげてちぢみし財布かな」「人間の何処ぞが縮み去年今年」。アー、ナサケナイ。

■ 歯を嵌めて素顔に戻る初鏡

菅野あたる

「歯を外し素顔に戻る初鏡」としなかったのは、入歯を嵌めた顔が日常だから、それを素顔と思いたい。その躊躇を「初鏡入歯嵌めたり外したり」。

■ 寝返りを打って難破の宝船

白井道義

ならば、「初夢の続きを見むと潜水す」「水底に黄金散らばる初潜り」「泡銭を掲げて浮上の二日かな」「初夢の寝返り拒み金縛り」。どれにする？

■ 三角と丸が連なる古日記

井口夏子

日記は誰かに見られることを想定して書くからね。△はAさん、○はBさんなどと。動詞と考えるとまた一興。「△と○をした」ホッホ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 門松は画面に飾るタブレット
・・・日替わりも佳しダウンロードで | 藤森荘吉 |
| 三が日仕事せぬのに疲れ果て
・・・休養のため仕事をするや | 高田敏男 |
| 人工の眼球で見る初日の出
・・・白内障の手術をしたな | 川島智子 |
| 見かけほど賢くはなし懐手
・・・口を開けば愚鈍のばれる | 麻生やよひ |
| 物見れば結わえたくなる十二月
・・・外科の先生切り裂きたがる | 都吐夢 |
| 宙吊りにされガラス拭く年の暮
・・・部屋の内部を覗く役得 | 田中早苗 |
| コンセント蛸足となる年の暮
・・・歌合戦も蛸のお世話に | 伊藤浩睦 |
| 女正月茶碗の酒を回し呑み
・・・不作法てふは専用車並み | 飯塚ひろし |
| 迎春や立食ひ蕎麦を道連れに
・・・胃の腑の立場思ひやらねば | 高橋素子 |
| 初日の出テレビで拝み超眩し
・・・輝度を下げねば眼に悪影響も | 黒田忠一 |

三寒の四温を何処かへ置き忘れ
・・・気象予報士健忘症で

小泉花子

新品に取替えたのは畳だけ
・・・古女房に骨董の価値

門屋 定

初富士や邪魔するビルのまたひとつ
・・・富士に背伸びを願ふは無理ぞ

奥脇弘久

■今月の滑稽句

	お迎えをお断りせし初詣 ご利益を信じて歩む恵方道	青木輝子 青木輝子
【佳作】	恵方巻きなりふりかまわずかぶりつき	青木輝子
	残り日やゴミ捨てあれば散らす鴉も 寒の水呑むは人にて雁でなし	青山桂一 青山桂一
【佳作】	初夢や若き日老い日見もせずに	青山桂一
	蓮根掘どっちがテロだと脅し合う 乙女らは冬のアイスを頬張りぬ	秋月裕子 秋月裕子
【佳作】	正月も養生専心起き上がり小法師	秋月裕子
	体力は極力温存浮寝鳥 炬燵出す出さぬも夫婦喧嘩の種	麻生やよひ 麻生やよひ
【佳作】	白魚の太鼓もなくておどり喰い 大人しや満腹らしい恋猫は 隣より褒められてをり堀の梅	有富洋二 有富洋二 有富洋二
	鬼やらふ貧乏神よお前もだ 付け睫まで真っ白の雪女	有吉堅二 有吉堅二
【佳作】	こんなにもみた日本人初詣	有吉堅二
	アラサーもアラフォーも初売り福袋 人類は女ばかりか春のカフェ	粟倉健二 粟倉健二
【佳作】	ユルキャラの目玉もすわる花見酒	粟倉健二
	二度寝入りして整へり初景色 宿帳を少し偽り冬の雷	飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】	煩惱は無限にありて除夜の鐘 ライオンに包囲されてる流行風邪	井口夏子 井口夏子
	一期一会利休心地で芋焼酎 日向ぼこおぬしも恐妻かとソクラテス	池田亮二 池田亮二
【佳作】	二四六懐炉増やせど老い止まず 鋤焼きや俺もう一晚泊まるから	石川セツコ 石川セツコ
	ぶつた切る寒鰯の目に睨まれて 卵割るたび正月の遠くなり	板倉肱泉 板倉肱泉
【佳作】	オレという男が騙す雪催	板倉肱泉

【佳作】	釈迦牟尼も猫も杓子もバレンタイン 冴返る布団に妻の足が来る 瀬戸物を名器でとおす宗易忌	伊地知寛 伊地知寛 伊地知寛
【佳作】	否定しないペンギンのいて氷張る 松茸と競ふ薄さの河豚刺身	伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	並べ置く熱爛の熱さかな 一斉に立つと云へども残る鳥 断定の出来ぬ結論蜃気楼	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	老二人仕事始めは医者通い 初句会会心の作選にもれ 掃き掃除南天の実を追ひかけて	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	風邪癒えて元気な妻の医者へ行く 冬の夜や電気毛布に干されけり 寅歳の馬面の友年新た	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	みかん山みかんが逃げる追ひかける シンデレラつまずく大晦日の階段に サンダルは冬眠のまま年を越し	上山美穂 上山美穂 上山美穂
【佳作】	豆撒いて庭中鬼の混み合へり 雪國の駒子の三味の糸の切れ 節分の猫に攫はる鯛かな	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	妙薬は無いとうそぶく風邪の神 股引をはくのに馴れし余生かな 湯ぼてりの臍の可愛ゆきお元日	越前春生 越前春生 越前春生
【佳作】	飾り海老作り物でも堂々と 松過ぎてひび割れ始む祝ひ餅	奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	獅子鼻をすぐずり落ちるマスクかな 水屋口より冬の蚊がコンバンハ ゆるキャラも肩怒らせて凧上る	笠 政人 笠 政人 笠 政人
【佳作】	時ならぬ猫の発情クリスマス 酒瓶を先づ片づけて煤払 古暦残尿感のやうなもの	加藤 賢 加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	落ち葉掃く車通るな風吹くな	門屋 定

	秋の川合いさわってるや出会橋	門屋 定
【佳作】	胼軟膏薬指にも出番来る 湯豆腐の角突き合はす上気かな	金澤 健 金澤 健
【佳作】	引っ越すや冬眠土竜と生き別れ 年末の最後の医院大繁盛	川島智子 川島智子
【佳作】	去年今年丸めて覗くカレンダー 老後にも待たるるあした日脚伸ぶ	菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	野間馬を野次馬が追ふ御慶かな 大根の一本足の並びかた 無花果の不気味な口を食べにけり	久我正明 久我正明 久我正明
【佳作】	初夢やソッチに寝返るアスリート	黒田忠一
【佳作】	風花の旅の終わりは犬の背 お年玉母親バンクへうかうかと	小泉花子 小泉花子
【佳作】	襖絵のうさぎが耳を立ててをり こたつ出る母はたちまち御用聞 白鳥の追っかけのみる楽屋口	小林英昭 小林英昭 小林英昭
【佳作】	幸運をきつと待ってるカレンダー 初売でアベノミックス買ってきた 復興の加速を期待オリンピック	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛 齋藤八兵衛
【佳作】	まだ俺は生きておるぞと年賀状 寝正月マスコミ断ちて俺の春 人間てふ愚かさ絶えず去年今年	酒井鹿洋 酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】	お正月娘と語る至福どき ソリ遊び出来ぬこの冬雪不足 ゆで卵つるり返身すべり止め	佐藤義子 佐藤義子 佐藤義子
【佳作】	ダイエットおせちで血糖はね上る 旧正殿茅葺朽ちて千木光る 御遷宮新旧の宮へ初詣	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】	デパ地下の晴着の手より年酒受く 節分の深夜の帰宅鬼気せまる 撫でられて腹黒くなる福の神	下嶋四万歩 下嶋四万歩 下嶋四万歩

【佳作】	助平な目付きに見上ぐ紅葉かな ジャンボクジ買ひつつ気分大富豪 蟹料理緻密な話には不向き	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	年玉の額で決まりし吾が位 告白をして初夢の所為にする	白井道義 白井道義
【佳作】	謝ればすむこととわかっている首すじ 虫の居所はそっとしておいて聴診器 風邪引くんじゃなかったマスクの言葉	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	こぶまきとハンバーグ買うお昼前 手袋し歩いて進む遊歩道 書初めやあの字この字と辞書調べ	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	飼犬もおやつねだつて四方拝 日脚伸ぶ鉄砲玉の子供かな	高田敏男 高田敏男
【佳作】	人日に重機蹂躞更地とす 読初は忘却論を選びたり 福笑ひ笑えぬやふな顔になり	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	未亡人宅を出入りの恋の猫 背伸びしており短日の影法師	高橋素子 高橋素子
【佳作】	かしらぬぎ踏切り渡る獅子舞師 初夢を告げる間に忘れけり 年玉を孫にもらいて年をしり	田中章子 田中章子 田中章子
【佳作】	西鶴の矢数俳諧の今年や 冬帝の急き込む秘密なんなのか 冬の虹忍者の記憶法まなぶ	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	打ち揃ひ初日を拝むミーアキャット 七年後希望新たにちゃんちゃんこ	田中早苗 田中早苗
【佳作】	寒波来るパンツ欲しげな陶狸 寒卵吞ませたわりに働かず 河馬麒麟犀に縞馬日向ぼこ	田村米生 田村米生 田村米生
【佳作】	賽銭を奮発したる初詣 年賀状今年来ぬひと気にかかり 初売りや売り子も声を高ぶらせ	津田このみ 津田このみ 津田このみ

	屠蘇散を忘れて味醂立ち尽くす 船渡しお前も乗るかとおアホドリ オリオンの中や団子三兄弟	土屋泰山 土屋泰山 土屋泰山
【佳作】	湯ざめ時悪代官は討たれ時 ほろ酔いの愚弟賢兄初電話	都吐夢 都吐夢
【佳作】	初電車スマホを乗せて走りけり 紅白も鐘も寝て聞く去年今年 年忘れマイク離さぬ天邪鬼	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	石段の一段ごとにある余寒 種袋あれもこれもと買込みて	永島董玉 永島董玉
【佳作】	獅子舞の囃んで含める神頼み 七種の芹のそのあと以下云云 女正月お宮参りのレイヴイトン	西をさむ 西をさむ 西をさむ
【佳作】	息白しゴジラの吐きたる火にも似て 湯豆腐で心も脳もあつたまり 短調の羽音寂し鶴の舞い	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	水漬の知らぬ子と待つ赤信号 歳末やわが煩惱の宝くじ ほけてゆくひびのひとひをひなたぼこ	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	虫鳴くや空腹の刻怒る刻 煤逃げよ墓参・散髪・会議とて 冬の蠅こんなに太り迷い込む	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
	物忘れいよよ進みて日記買ふ 年玉に時代感覚ゼロの爺 御神籤は自販機任せ年用意	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】	変りばえせぬ顔ひとつ初鏡 エクセルに <input type="text"/> されし年の計 三が日テレビのON・OFFくり返し	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	恵方向きコーナー駆ける馬の息 修業僧瀑布着るやう寒籠り 初夢や涎余白の刻浸り	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	普通といふ個性もありて年忘れ 忘年会鍋奉行我れ待ち奉行	藤森荘吉 藤森荘吉

【佳作】	時雨るるやひたすらに娘を想ふとき 雑踏に亡夫(つま)探しみる初詣 大晦日写真の夫に問ひかける	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子
【佳作】	急階段に膝を笑はせ初詣 問はれみるなりお雑煮の餅の数 梟の目のまん丸や猫の目も	松井寿子 松井寿子 松井寿子
【佳作】	流し目の尼僧焼芋頬張りぬ ほろ酔や白き息までおどけ舞ふ 酔漢にいびられてみる雪達磨	松井まさし 松井まさし 松井まさし
【佳作】	別れても養育費残る去年今年 われの背に妻の罵声の時雨かな 出勤の妻に責つかれ賀状書く	松尾軍治 松尾軍治 松尾軍治
【佳作】	彗星の儂く萎む師走入り 滑稽の頂遥か年暮るる 元旦や馬齢が一つ積み上がり	丸山絃一 丸山絃一 丸山絃一
【佳作】	暖房車ふた駅走れば皆眠る 着膨れてベビーカーには目だけあり お大事にと風邪気味なる主治医言ふ	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	また一つ煩惱増ゆる除夜の鐘 息災に生きるは難し七日粥 七草や悪玉菌に一分の理	百千草 百千草 百千草
【佳作】	ばらばらの鏡開の福つなく うす化粧して良し七草の粥 除夜の鐘二つの訃報を受け取りし	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	悠久の流れ去来す除夜の鐘 年一度元気の証賀状読む うまい屠蘇うまいお節に馬居年	森 要 森 要 森 要
【佳作】	長(なが)の字のついでしまひし初電話 一枚の白紙に宿りたる淑気 無垢の青広げきつたる初御空	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	淫らなる風に恋して火水始め 午歳の妻は馬面馬日かな 廻り終へ独楽のふらつく千鳥足	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑

【佳作】	花丸を星座に掲げどんど焼 二股の大根美しダンスめく	柳 紅生 柳 紅生
【佳作】	夫の手が孫より先に節料理 化粧などできぬ厳寒頬被り 今日生きて明日への命節料理	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子
【佳作】	先客の猫に習ひてひなたぼこ 銀髪之頂紳士綿帽子 穴多く開けたる日記去年今年	山下正純 山下正純 山下正純
【佳作】	とら河豚のパニック水槽に入れられて 自然薯の旨い痒いの合わせ技 二才児を抱かねばならぬ玉子酒	山本けい子 山本けい子 山本けい子
【佳作】	リュックから破魔矢がのぞくモノレール 平静をとり戻したる奴胤 経験をここまで積んで年用意	山本 賜 山本 賜 山本 賜
【佳作】	まちがひのファックスどきり初笑 教養を強要されて歌留多会 今の顔どんなだらうと年賀状	横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎
【佳作】	御降りや傘さす程もなかりしが 風骨のからだ溺るる初湯かな 初写真長老の席中央に	渡辺さだを 渡辺さだを 渡辺さだを